

氏名	竹 原 謙 三		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 691 号		
学位授与の日付	昭和50年 9 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学位論文題目	肝障害時における肝構成細胞の核酸代謝に関する研究 第 1 編 肝疾患臨床例における観察 第 2 編 コリン欠乏性ラット脂肪肝についての観察 特に xylitol による病像修飾について		
論文審査委員	教授 大 藤 真	教授 平 木 潔	教授 小 田 琢 三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝生検で得られた肝組織片を in vitro で ^3H - thymidine を含有する培養液中で培養し、autoradiography を行うと S 期の細胞が標識されるが、このことを利用して病的肝の構成細胞の動態を検索した。急性肝炎では肝細胞の再生が優位であり、慢性肝炎では肝細胞やグリソン鞘内のリンパ球の標識が非活動型に比べて活動型に優位であり、グリソン鞘内でリンパ球が増生されていた。肝硬変では胆細管と線維細胞の増生が主で、病型別では A' , B 型肝硬変で特に強かった。また肝疾患別に肝組織を上皮性細胞、間葉系細胞について増殖の割合をみると、慢性肝炎活動型において間葉系細胞優位であり、病態の遷延化との関連を伺い得た。

ラットをコリン欠乏食で飼育すると脂肪性肝硬変になるが、コリン欠乏食を構成する蔗糖 (48%) のうち 10 ~ 20 % を xylitol で置換すると、脂肪肝及び肝硬変への進展が予防されることを観察した。そこで DNA 代謝の面からこの変化について解析し、autoradiography で、肝細胞核への標識率を調べた。その結果、xylitol による以上の変化は DNA 代謝とは無関係に現われる変化であることが判明した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究者は、肝障害時の肝構成細胞の核酸代謝について autoradiography で研究を行ったものであるが、従来十分確立されていなかった病的肝の構成細胞の動態について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。